

件名	柏崎刈羽原子力発電所6号機の点検停止について
通報日	平成19年4月26日
概要	<p>当社・柏崎刈羽原子力発電所6号機（改良型沸騰水型、定格出力135万6千キロワット）は、定格熱出力一定運転中ですが、平成19年4月25日午後2時26分頃、タービン建屋地下2階復水器室において、床面に水溜まりがあることをパトロール中の当社社員が発見いたしました。</p> <p>現場を確認したところ、タービン建屋1階復水器室内にある配管*に取り付けている保温材の隙間より水が滴下し、グレーチング（金網状の床）を通じて地下2階床面に溜まっていたことがわかりました。</p> <p>発見した際に床面に溜まっていた水の量は約4リットル、放射エネルギーは約1.2×10^4ベクレルで、その後も微少な漏えいがありますが、液体廃棄物処理系で適切に処理しております。</p> <p style="text-align: right;">（平成19年4月25日お知らせ済み）</p> <p>調査の結果、タービン建屋1階復水器室内にある給水ポンプの軸封部のシール水を排水するための配管のエルボ部（配管を曲げている部分）付近からの漏えいであることを確認しました。</p> <p>本事象は直ちに運転に影響を及ぼすものではありませんが、点検、原因の調査および補修を行うため、本日午後4時からプラントの停止操作を開始いたします。</p> <p>なお、これによる外部への放射能の影響はありません。</p> <p>*：配管 給水ポンプの軸封部のシール水を排水するための配管（外径：約10cm）であり、第3給水加熱器に接続されている。</p> <p>（平成19年4月26日 プレス発表内容） http://www.tepco.co.jp/cc/press/07042603-j.html</p>